

編集委員が選んだ本

『ピケティ入門『21世紀の資本』の読み方』

竹信三恵子／金曜日／2014年12月／1200円（税別）
 パリ経済学校教授トマ・ピケティの『21世紀の資本』が出版された2013年以来、すぐに英語版・中国語版・韓国語版が登場するなど、その主張は賛否両論から世界的「ピケティ・パニック」が起きている。ピケティの主張は一言で言えば「格差は放置すれば広がる」というもの。マルクスの「悲観的アプローチ」、クズネットの「終末論からおとぎ話への楽観性」の持つそれぞれの長所を生かしながら、両者に欠けていた歴史視座を盛り込んで分析している。やや難解なこの経済文明史のような本を、日本経済の現状とリンクさせてわかりやすく解説しているのがこの著書。「人生いろいろ」「格差批判はそねみ」「日本に餓死する人はいない」「格差は自然に消滅する」の目くらましを見抜きつつ、すべてか無かの発想（負け癖）に陥らずに取り組み勇気と知恵を考えさせてくれる。

『国家と秘密 隠される公文書』

久保亨・瀬畑源／集英社新書／2014年10月／720円（税別）
 「公文書館の規模や、公文書の整理公開状況などが、諸外国（アジア諸国も含めて）と比べ、日本は、頭がくらくらするほど遅れている」と聞いただけでは、「へえ、それはまずいですね。」くらいの受け取られ方だろう。それがどんなに問題か。国民の「知る権利」を軽んじ、公文書を「国民のもの」と考えず、秘密が横行する権力は、必ず暴走する。福島第一原発事故にいたるまで変わらない、「無責任の体系」を支えている構造……。それがようやく、「情報公開」で「説明責任」が根づく方向が現実化したところで行われた、2013年末の特定秘密保護法案の可決。研究のため諸国の公文書館を渉猟している歴研会長と公文書研究の専門家の記述ならではの説得力がある。

『熊谷直実 中世武士の生き方』

高橋修／吉川弘文館／2014年9月／1700円（税別）
 平安時代から登場する武士団は、具体的に復元することが難しく、教科書では抽象的な記述になってしまう。本書はその武士団のケーススタディで、武士団についての通説とその、現在学会で支持されている説とを並べていて、通説との違いを明瞭にしてみらえるのありがたい。熊谷直実は出家したことで知られているが、暴力的な姿についてもエピソードがいろいろある。最後に熊谷駅から始まる巡検が文章化されており、故地を筆者に案内してもらっている感じがおり、リアルさが興味深い。

『アジア主義—その先の近代へ』

中島岳志／潮出版社／2014年7月／1900円（税別）
 2015年は、日本が対中国21か条要求を出して100年目。戦前期の日本人の中にはアジア主義を掲げ、アジアと連帯を模索しながら、逆にアジア諸国に対する侵略に手を貸していった人が少なくない。さまざまな問題があった「アジア主義」の根底を読み直し、現在の東アジアの不幸な状況を打破すべく、そこに潜んでいたはずの新しい可能性について論じている。「西郷隆盛と征韓論」「なぜ自由民権運動から右翼の源流・玄洋社が生まれたのか」「孫文の登場—宮崎滔天・内田良平・南方熊楠」等、改めて歴史を読み直したくなるテーマが満載である。

『街場の戦争論』

内田樹／ミシマ社／2014年10月／1600円（税別）
 よほど能天気か鈍感な人でないかぎり、現代の状況に不安や閉塞感を感じたり、「正義が通らない」感覚をもったりしているのではないだろうか。この本を一読すると、「目から鱗」、視野が広がり、自分の想像力に翼が生えてくる。タイトルからすると、「内田さんなりに戦争を語るのか」と思っていたら、21世紀の現在の個々の出来事をシャープに切り取り、未来に向けて、「どう生き延びるか」まで、柔軟に、かつ説得力ある筆致に、閉塞感が吹きとばされる。そうか……こうやって、いまの政治や社会を見る方法も、あるのか。よし、私も……。

『先進国・韓国の憂鬱』

大西裕／中央公論新社／2014年4月／840円（税別）
 日本と同様に、韓国も格差社会・少子高齢社会に対応すべく、社会福祉政策が模索されている。1997年のアジア通貨危機によりIMFの言うことを聞くしかなく、自由主義的な社会福祉になったと一般的に言われるが、韓国国内の政治構造によって政策が打ち出されたことを本書は重視する。その政治構造は進歩派と保守派の対立を軸に描かれる。その対立により、どの大統領も目指したい方向に舵を切れない。記述は金大中・盧武鉉政権が中心で李明博・朴槿恵と続く保守政権は多少薄いのだが、見通しは十分示している。市民の大規模な集会により、時の政権が政策の変更追い込まれる姿は極めて民主主義的で、その結果、どの大統領も憂鬱にならざるをえない。社会福祉政策と米韓FTAとを組み合わせて分析しており、それを日本と比較して考えられるので、理解がしやすい。

定価（本体200円＋税） 編集・発行 実教出版株式会社 代表者 戸塚 雄弐
 2015年3月20日 印刷 発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5 Tel.03-3238-7777
 2015年3月25日 発行 <http://www.jikkyo.co.jp/>